

3月3日(日)



# ひなちらし

隠れシャリにこだわった

1パック

1,000(税込)円

 **西田鮮魚店**

**☎72-5246**

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

御用聞き便ポイントカード 火・水曜日ポイント2倍

日も長くなり、気温も上がり世間では卒業式のシーズンですね。

今日は、ひな祭り！全国の女の子のお祭りです。私も娘が二人居ますがもう家族で過す歳では無くなりました。小さい頃は、自分が作ったひなちらしを持って帰ると喜んでくれて、それを見るのが何より楽しみでした。今では雛人形など飾ることも無くなり、洪々と嫁さんに買って帰るくらいです笑。

そんな当店のひなちらしも、年々改良を加えているわけで、今回はシャリにこだわり、3種入れてます。

①網えび ②刻みかんぴょう ③ゴマ。

別れたのですが、口に運ぶとまず「シャリッ」と酒落ではないのですが、口に運ぶとまず「シャリッ」と歯応えが有り、それから広がる網えびの香ばしさからの、かんぴょうの甘味！そしてラストに、鼻に抜けるゴマの香りの三所攻め！そこに当店自慢の活きの良い魚が合わる事で、口の中でひなちらし祭り始まります。そう、例えるなら竜宮城の様なキラキラの中で、飲んで歌って最高の仕上がり！乙姫様も食べたくなる、その名も「乙姫ちらし寿司じゃ！」と家で語っていたら、嫁に冷たい目をされてしまいました…笑。

今回の自信作！皆様の笑顔を思い浮かべながら一生懸命作らせていただきます。蛤も用意しておりますので、お吸物も一緒にいかがですか。御来店お待ちしております。

西田鮮魚店 主任 奥原 歩久斗

# 『庄原にスタバ?』④

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



まだ小学生のころだったろうか、庄原の本通りに人が行き交い賑わっていたころ、『海内洋品店』という店があった。私たちは『かいち』と呼んでいた。

小さなお店だったけど、都会的でおしゃれな婦人服や化粧品のお店だった。あのころはブティックなんて呼び名もなかったろうが、まあそんな感じだ。こども心に、なんとなく気おくれするような……。婦人服の店だからあたりまえだが。

その『かいち』で、夏になるとお店の二画で、かき氷を売っていた。もしかしたら、喫茶店だったのかもしれない。一年中あったのかもしれないが、私の中で冬のイメージはない。

あのころは、自宅の玄関先を、ちょこちょこつと改装してお好み焼きを焼き、夏はかき氷も売るといってお店がよくあった。うちの近所にも2軒あって、10円もって食べに行った。近所のおばちゃんだから、なんの遠慮もなかった。

しかし、『かいち』は違った。たぶん店の奥まったところに、それはあったのだろう、とてもじゃないが、鼻水を垂らしたようなこどもが入れる店ではなかった。

そんな『かいち』に、母は連れて行ってくれることはなかった。

しかし、ただ、一度だけ、7月17日の『十七夜』の花火のあと、『かいち』に連れて行ってくれた。そして、『ミルクセーキ』を食べさせてくれた。

細く背の高いグラスに入る、淡い黄金色をしたまろやかなミルクセーキを、細長く螺旋を巻いた柄のスプーンで食べた時の言いようのないぜいたくな思いは忘れられない。

私は、『かいち』で初めてミルクセーキを知った。ミルクセーキを食べると、『かいち』が頭をよぎる。今でも。

シアトルで生れた『スターバックス』が、1996年に日本に上陸し、雑誌やテレビで騒がれた。おしゃれな人が集まると。

仕事で東京に行くと、飲食店仲間が、スターバックスに誘う。なるほど、おしゃれっぽいお客でいっぱいだった。「なめられちゃあいけん」。

私は、さも、いつも来てるよ的な雰囲気を感じ、友人の後ろに並び、コーヒーを頼んだ。友人が「トール」と注文していたので、私も「トール」と真似した。『L』とか『S』とかにしろよと思いつつながら。

友人の後を追いつ、少し離れた所でコーヒーを受け取った。「えっ、紙コップか!どこがおしゃれなんじゃ」。席についてた。「やれやれ」。

私は、コップのふたを外した。飲み始めて少しして気づいた。友人たちは、ふたのまま飲んでる。周りをみると、周りもみんな。「そうか、ふたのまま飲むのか」。穴があいているのは、車で飲む時のためのものだとばかり思っていた。私は聞かれもしないのに「ふたを取った方が飲みやすいよな」と口にしてた。もちろん、次からはふたをとらずに飲んでる。

同じことを拓郎がオールナイトニッポンで話していた。吉田拓郎だ。拓郎も初めて『スタバ』に連れて行かれたとき、私と同じようにコーヒーのふたをとってしまった。誰も、ふたをとらずに飲んでる。あせった、と。

天下の吉田拓郎も西田昌史も一緒だ。ほっとする。紙コップにプラスチックのふた。そこに飲み口をつけて飲ませる。ふつうなら安物に思うはずなのに、それをかっことよく見せる。そして、それがあたりまえになった。すごいなスタバ。

コーヒーがあまり好きではない私は、コーヒーのおいしさがわからない。だから、こだわらない。喫茶店では、初対面の人などの場合、仕方なくコーヒーを頼むが、そうでないときはクリームソーダやトマトジュースを注文する。ときどき、パフェを頼んでみるが、甘すぎたりして持て余してしまう。それと、184センチ90キロの私の前におかれると、ちょっと恥ずかしい。だから、喫茶店にはあまり入らない。

『スタバ』はコーヒー豆と焙煎に、こだわりにこだわるところから始まったらしい。だから初めのころは、『スタバ』でコーヒーを飲むのがおしゃれだったようだ。

しかし、今では『フラペチーノ』が売り上げの20%を占めているらしい。

私は迷うことなく『フラペチーノ』だ。時々、何フラペチーノかわからなくなると、思わずコーヒーと言ってしまうこともあるが。

喫茶店でクリームソーダやパフェを注文すると「えっ?」という顔をされるが『ダーク・モカ・チップ・フラペチーノ』を飲んでいても、ぜんぜん違和感はない。初対面の人であってもだ。だから、お茶を飲もうということになると『スタバ』を探す。今は、ほんとにいろんな場所にできているから、うれしい。

『スタバ』は、こどものころの私の『かいち』なのかもしれない。あのときの『ミルクセーキ』は、今の『フラペチーノ』なのかもしれない。

おしゃれで、どことなく都会のかおりがして、すこし背筋が伸びた。

庄原日赤で人間ドックに入った。受付の女性が私のカルテを見て、にっこりと「読んでますよ」と声をかけてくれた。ちょっと、どきまぎして「ありがとうございます」と応えた。そして、彼女はひと呼吸おいて「スタバができればいいですね」と言った。

やっぱり『スタバ』がほしい。庄原にも。こどもたちの、思い出のためにも。

## 追記

『かいち』の記憶があやふやだったので、同級生の女の子(71才を女の子というかどうかはともかく)に電話した。「かいち、覚えてる?」「覚えてる。ミルクセーキの」。「そういえば、小物も売ってたような気がする」とも。

それ以上出てこないの、彼女は友達に訊いてみると言って電話を切った。すこしして掛ってきた。訊いた子も、「かいちのミルクセーキはみんな知ってるよね」と言っていたか。



むかし子どもの時、ミルクセーキは特別な飲み物だった。